

世界遺産暫定一覧表記載資産候補に係る提案書

資産名称

「近世岡山の文化・土木遺産群

－岡山藩郡代津田永忠の事績－」

平成19年9月27日

岡	山	県
岡	山	市
備	前	市
赤	磐	市
和	気	町

目 次

(1) 提案のコンセプト

- ① 資産の名称 1
- ② 文化資産の概要 1
- ③ 資産の概要を示す位置図と写真 2

(2) 資産に含まれる文化財

- ① 整理票 5
- ② 構成要素ごとの位置図と写真 7

(3) 保存管理計画

- ① 個別構成要素に係る保存管理計画の概要、又は策定に向けての
検討状況 21
- ② 資産全体の包括的な保存管理計画の概要、又は策定に向けての
検討状況 22
- ③ 資産と一体をなす周辺環境の範囲、それに係る保全措置の概要
又は措置に関する検討状況 23

(4) 世界遺産の登録基準への該当性

- ① 資産の適用種別及び世界文化遺産の登録基準 24
- ② 真実性及び完全性の証明 24
- ③ 類似遺産との比較 24

(1) 提案のコンセプト

①資産の名称

近世岡山の文化・土木遺産群 ―岡山藩郡代津田永忠の事績―

②文化資産の概要

寛永9年(1632)岡山藩主となった池田光政は、自ら儒学を深く信奉、儒学者を登用し、藩学校や閑谷学校を創設して家臣・領民の子弟教育に熱意を注ぎ、藩政の基礎を確立、またその子綱政は児島湾北岸の新田開発や岡山後楽園・曹源寺造営を進め、藩政の振興に努めた。これらの事業遂行の実務を担ったのが、両藩主を支え藩郡代の要職に就いた津田永忠であった。

永忠は、光政の信任を得て、藩政の最高評議機関である評定所に列座し、学校奉行等に任ぜられ和意谷墓所・閑谷学校の建設を進めた。光政致仕後、閑谷に移り、閑谷学校等の管理に専念したが、延宝3年(1675)の大洪水からの復興を目指す中で、藩主綱政により藩財政再建・藩政改革の責任者に起用され、その手腕を発揮した。

彼が統括した技術集団が関与したのは、井田、岡山藩主池田家墓所(和意谷墓所)、旧岡山藩藩学、倉安川吉井水門、田原用水水路橋、大多府漁港元禄防波堤、岡山藩主池田家墓所(正覚谷墓所)、百間川と沖新田、岡山後楽園、旧閑谷学校等の多岐にわたる造営事業であり、それらの事績は、国宝・重要文化財1、国特別史跡1、国特別名勝及び史跡1、国史跡2・重要文化財4、県史跡・県指定重要文化財2、市史跡1、国登録文化財1と高く評価されており、彼の類稀な手腕・構想力を如実に示すものといえる。

上記遺産群の大きな特徴は、①池田光政・綱政の両藩主と、それを支えた津田永忠という傑出した才人が関わって存在したこと、②その中心施設である旧閑谷学校と岡山後楽園は、単独として見ても、日本を代表する文化遺産であり、かつこの種の施設(学校、庭園)は、これまでわが国で世界遺産の登録対象となっていなかったこと、③上記遺産群を構築する過程で、この地域に産する硬くて良質の花崗岩が多用されたこと、④岡山後楽園や旧閑谷学校以外の遺産も、国内・国外を問わず、第一級の優れた構築物であること、⑤上記遺産群は、いずれも、元禄年間を中心に造られたものであるが、その技術力の高さは、江戸時代を通じて保持され、他藩へ、また、近代へと継承されていたこと、⑥最後に、それらの多くが現在も残り、優れた伝統的景観として風景に融け込んでいることの6点にある。

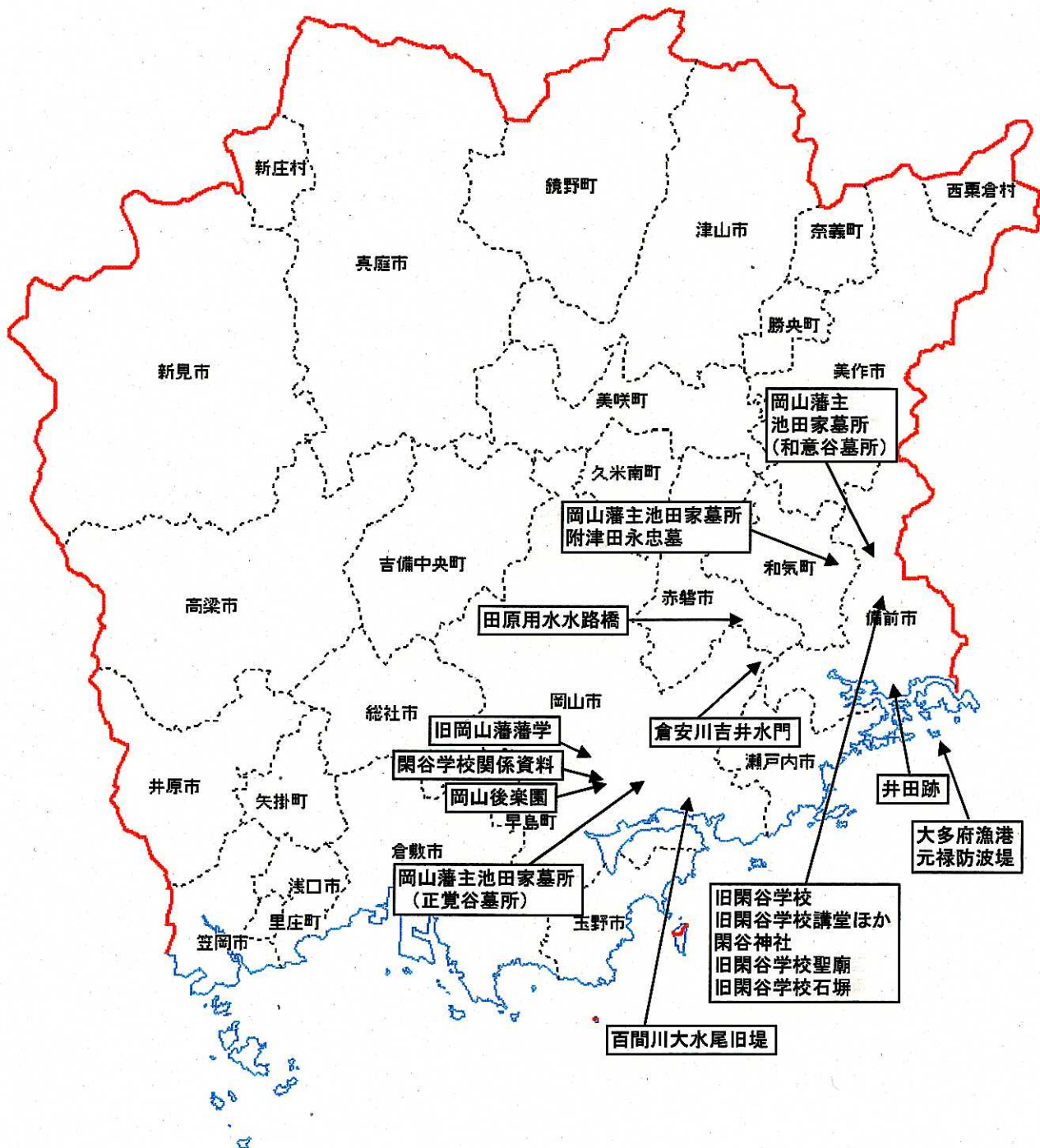
また、一連の土木遺産群にみられる石材加工技術においては、①石垣では、割石・切石を緻密に組み合わせた「備前積み」、②石塁では、頂部に加工石材を用いて丸く仕上げた「巻石」、③橋などの工作物では、長尺の梁と柱を組み合わせた「井桁」構造という、地域性のある高度な技術が駆使されており、同時に造形的価値も高く評価できる。全国的に見て、これほど多種多様な石造構築物が集中して見られる地域は他になく、さらに実用的石構築物の中には、国内で現存最古(倉安川吉井水門、大多府漁港元禄防波堤)、国内最大(田原用水水路橋)、世界でも現役で利用されている最古級のもの(大多府漁港元禄防波堤)が含まれている。

上記、文化・土木遺産群の重要性は、近世封建社会下にあって、藩主導で実施されたものであるが、結果的には領民の生活・文化の向上と安寧に多大な貢献をした事業であるという共通点を有することにある。現存する多くの文化・土木遺産は、人々の暮らしに直接必要な実用目的の構築物であり、こうした生活と密着した施設群が地域の文化と伝統の底流となって、現在に至るまで、地域の歴史的・文化的風土を創り出していることにこそ、最大の意義があるといえる。

したがって、偉大な先人達が英知を駆使して構築したこれらの貴重な文化・土木遺産群を、後世に保存・継承していくことは、現代に生きる我々に課せられた重大な責務であると考えられる。

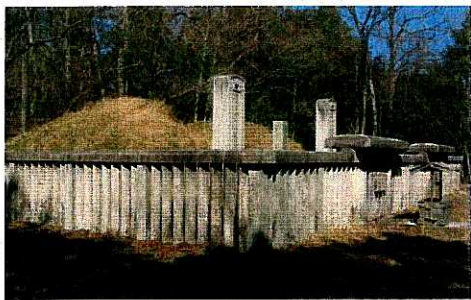
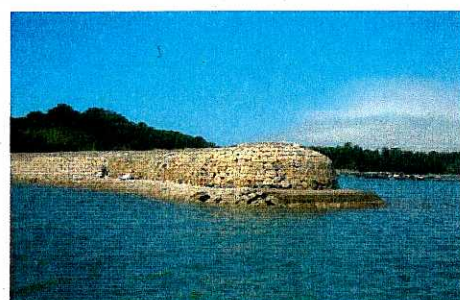
③資産の概要を示す位置図と写真

岡山県における資産の位置図



②写真

1		2	
	岡山後楽園		旧岡山藩藩学
3		4	
	旧閑谷学校		旧閑谷学校講堂
5		6	
	閑谷神社		旧閑谷学校聖廟
7		8	
	旧閑谷学校石塀		閑谷学校関係資料

9 ①	 岡山藩主池田家墓所 附津田永忠墓(正覚谷墓所)	9 ②	 岡山藩主池田家墓所 附津田永忠墓(和意谷墓所)
9 ③	 岡山藩主池田家墓所 附津田永忠墓(津田永忠墓)	10	 倉安川吉井水門
11	 田原用水水路橋	12	 井田跡
13	 大多府漁港元禄防波堤	14	 百間川大水尾旧堤

(2)資産に含まれる文化財
①整理表

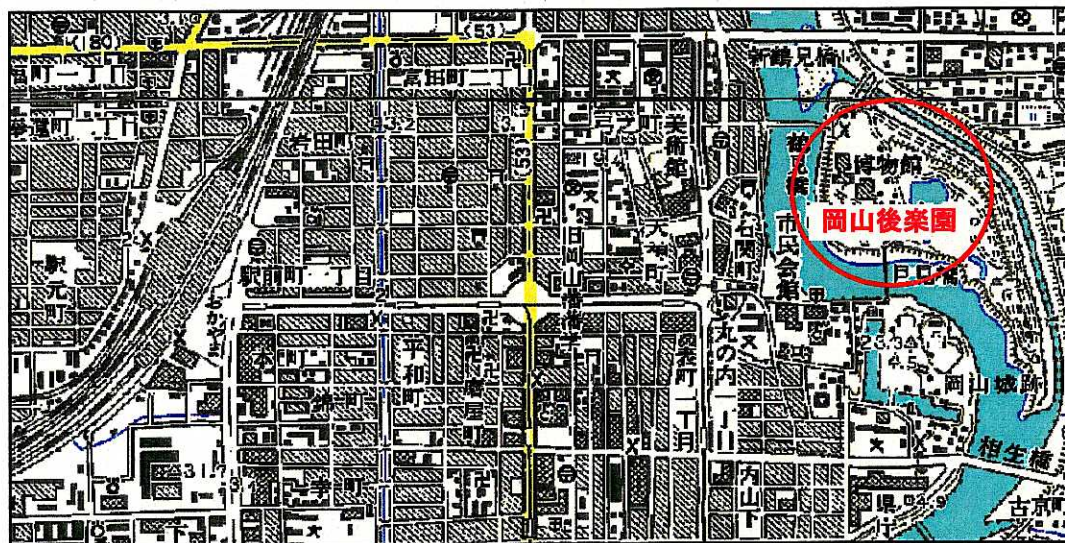
番号	名 称	保護の 主体 (指定・ 登録)	保護の 種 別	面積等	要 約
1	岡山後楽園	国	特別名勝・ 史跡	特別名勝 114,591㎡ それ以外の 史跡部分 2,373㎡	岡山藩主池田綱政が津田永忠に築庭を命じ、元禄13年(1700)に一応の完成を見た、日本を代表する大名庭園である。明治17年(1884)に岡山県に移譲され、一般公開された。現在は岡山県が後世に伝える文化遺産として保存・管理及び公開・活用を行っている。
2	旧岡山藩藩学	国	史跡	2734.21㎡	岡山藩主池田光政が津田永忠に命じて岡山城下に造営した藩士の師弟教育のための藩校。寛文9年(1669)の落成で全国の藩校の中で初期のもの。建築物は現存しないが、前庭部に花崗岩加工技術を駆使した石桁橋が架かった泮池が残る。
3	旧閑谷学校	国	特別史跡	38,825㎡	池田光政が寛文6年(1666)に領内の村役人クラスの教養のために創建を決意し、その設立について津田永忠に命じて造らせたもので、主要な施設がよく遺る。郷学ではあるが、規模も大きく、建造物としても優れ、江戸時代の学校施設の典型として教育史上価値が極めて高い。
4	旧閑谷学校講堂、 小斎、習芸斎及び 飲室、文庫、公門	国	国宝・ 重要文化財	5棟	国宝の講堂は備前焼瓦葺、上等の樫の丸柱を使用、漆塗り仕上げなど優れた建物。儒学の殿堂にふさわしい様式。現講堂は元禄14年(1701)の建築。桁行19m、梁間約16m、一重、入母屋造、本瓦葺。その他の建造物は重要文化財に指定されている。
5	閑谷神社	国	重要文化財	8棟	池田光政やその祖先を祀る神社で、聖廟の東に並列。貞享3年(1686)に完成、明治期に学校から独立し神社となる。本殿には光政の金銅坐像を安置。
6	旧閑谷学校聖廟	国	重要文化財	11棟	孔子廟または西御堂ともいわれ、儒学の殿堂の中心をなす建造物。貞享元年(1684)の建築。金銅製の孔子像を安置。「積菜」を行う場。
7	旧閑谷学校石塀	国	重要文化財	1棟	主要建物を囲む石築塀。カマボコ型の石築塀約505mを含め総延長は約765m、幅・高さとも約2m。切石の隙間ない巧妙な組み合わせに、当時の優れた技術がうかがえる。元禄14年(1701)建造開始。
8	閑谷学校関係資料	国	重要文化財	4,041点	文庫内に収蔵されていた典籍類を中心とする資料。教授の資料や生徒の学習用に用いられた漢籍・国書に一部絵画・器物等がある。創学当時のものを含め、大きな散逸なく伝えられた学校関係の資料として貴重。

9	岡山藩主池田家墓所 附津田永忠墓	国	史跡	計 487,445.9㎡ 岡山市分 303,949.44㎡ 備前市分 183,030.46㎡ 和気町分 466㎡	正覚谷墓所は池田綱政以降の岡山藩主の墓所で、墓石や巻石構造の階段側石など精巧な石造技術が駆使されている。この墓所を境内に含む曹源寺は、元禄10年(1697)に建立され、雄大な禅宗伽藍建築や回遊式庭園などが残る。和意谷墓所は、藩主池田光政が祖父輝政と父利隆を埋葬するため、寛文7年(1667)から築造させた墓所。墓碑、亀趺、誌石などは、大坂城などにも用いられた花崗岩を切り出し使用している。上記はいずれも津田永忠が藩主から命じられて造作させたもの。附津田永忠墓は、藩主光政・綱政の2代に仕え、郡代という重職に就いて藩政の中核で活躍し、また土木役人として最高の技術と資金を注ぎ込んで数々の土木事業を手がけた異才の墓所。津田家の墓所には各7つの石塔・土塚がある。
10	倉安川吉井水門	岡山県	史跡	785.98㎡	倉安川は吉井川から旭川を繋ぐ水運と干拓地新田への灌漑を目的とする人工水路で、津田永忠によって延宝7年(1679)に完成した。その起点に残る閘門式水門は、曲線をなして延びる護岸石垣などを伴い高度な設計理念と技術が駆使されている。閘門式水門としては国内現存最古である。
11	田原用水水路橋 (石の懸樋)	岡山県	重要文化財	1基	元禄6～7年(1693～4)に行われた田原用水の延伸工事で、小野田川を越えて通水するため、津田永忠によって設置された水路橋。方柱状石材を組み合わせて構築されており、長さ約13m、幅約3m、深さ約1mを測る。移築して保存。
12	井田跡	備前市	史跡	46㎡	岡山藩主池田光政が津田永忠に命じ、中国周時代の地割租税制度とされる井田法を再現したもの。寛文11年(1671)上井田を完成させ、公私の田や廬舎を設けて閑谷学校の経営のために租税を納めさせた。明治9年(1876)、池田光政の遺徳をしのんだ村人により石碑が建立されている。碑の側には井田の一万分の一の模型を作成している。
13	大多府漁港 元禄防波堤	国	登録有形文化財	延長 129.7m 幅 6.0m 高さ 5.0m	瀬戸内海の大多府島に元禄11年に岡山藩が津田永忠に命じて築港させた大多府港の施設である。2段に石を積んだ構造で、曲面形状になる堤の築造技術にはみべきものがある。長年の使用で随所に補修の跡はみられるが、わが国で現存する数少ない明治以前の防波堤の中で、最も優れた構造物の一つである。
14	百間川大水尾旧堤	未指定	—	延長 500m 幅 14m 総面積 約7,000㎡	元禄5年(1691)に津田永忠が開発した沖新田を通る百間川の治水対策として、彼が日本で初めて考案した「河口市遊水池+河口水門」システムで、遊水池を囲む堤防が現存している。現在は、新たに築かれた堤防の居住地側に位置し、延長約500mを残している。

②構成要素ごとの位置図と写真

名 称： 特別名勝及び史跡 岡山後楽園

所在地： 岡山市後楽園272、273、274、275、275-1、276、277、278、281ほか



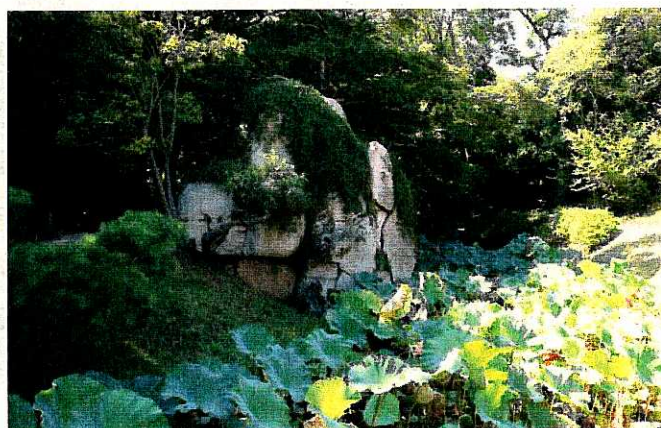
唯心山・岡山城を望む



航空写真



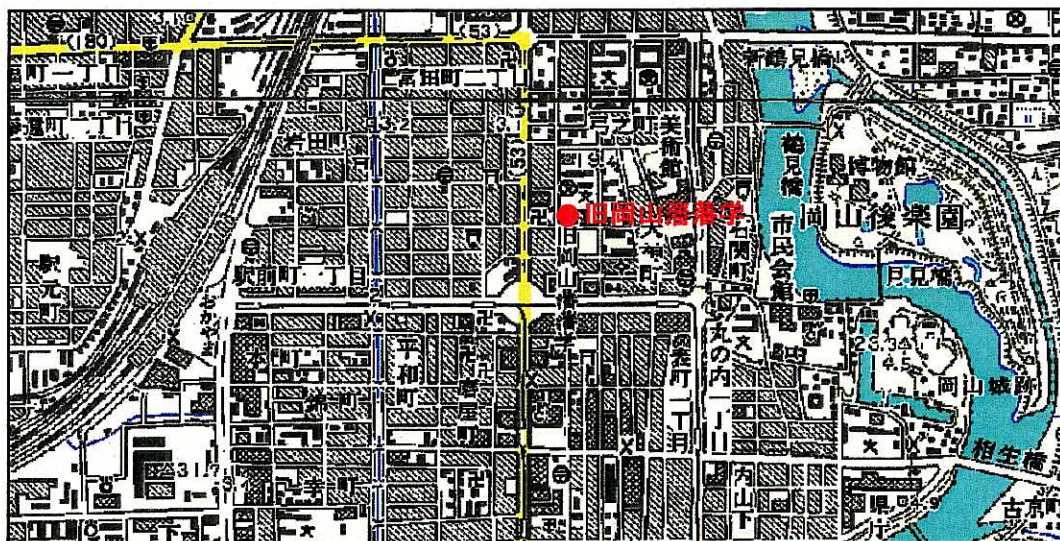
曲水



大立石（花葉の池）

所在地：岡山市西内山下48、49-1（現岡山市蕃山町6）

所在地：岡山市西内山下48、49-1（現岡山市蕃山町6）



旧岡山藩藩学(全景)



石桁橋細部

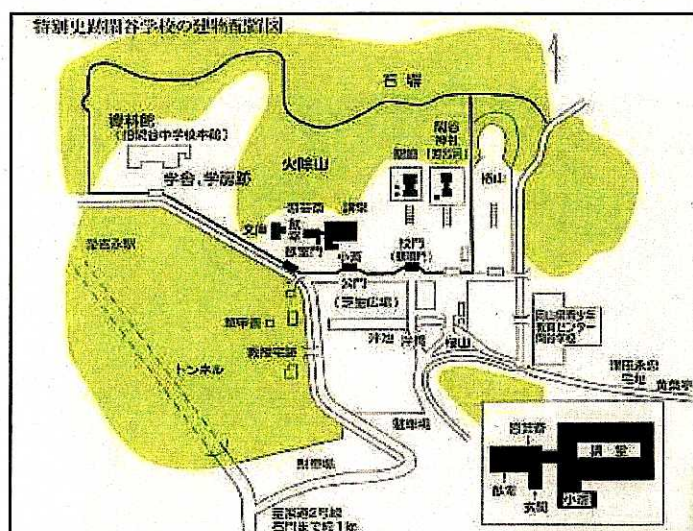
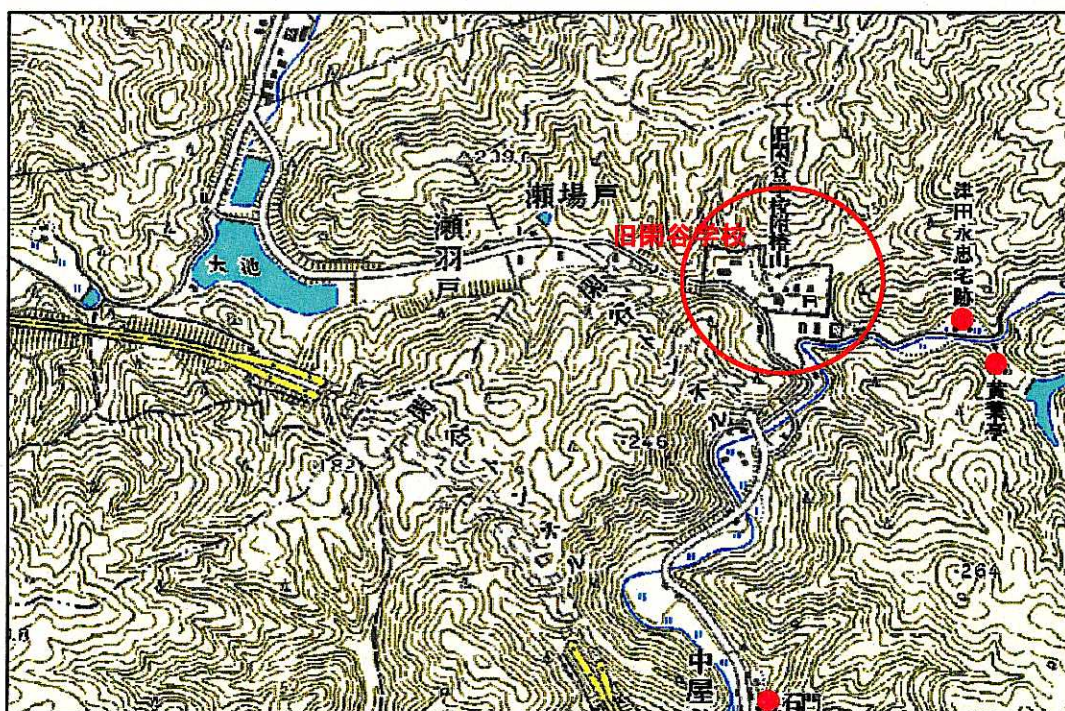


泮池に架かる石桁橋(南東から)

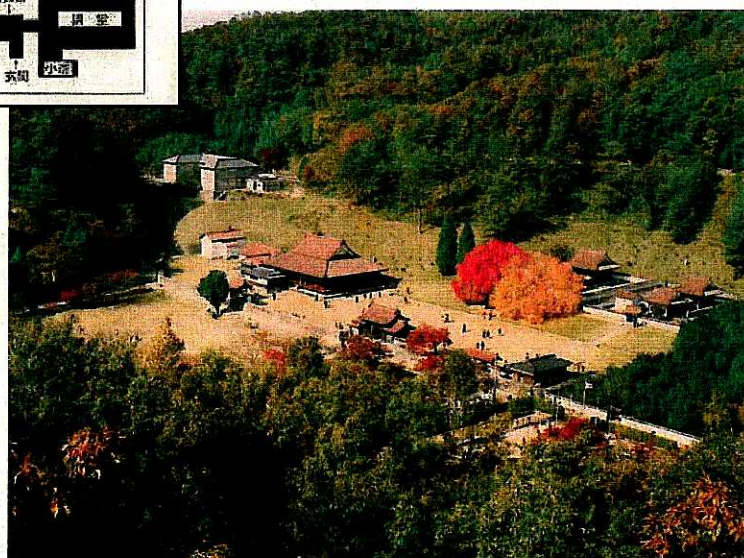


泮池に架かる石桁橋(南西から)

所在地： 備前市閑谷740、741、742、743、744、745、748、750、800、801、821、609-3



建物配置図



全景

名 称： 国宝及び重要文化財 旧閑谷学校講堂、小斎、習芸斎・飲室、文庫、公門
所在地： 備前市閑谷742



講堂



講堂の内部



小斎



習芸斎・飲室

名 称： 重要文化財 閑谷神社（旧閑谷学校芳烈祠）
所在地： 備前市閑谷748



閑谷神社

名 称： 重要文化財 旧閑谷学校聖廟
所在地： 備前市閑谷742

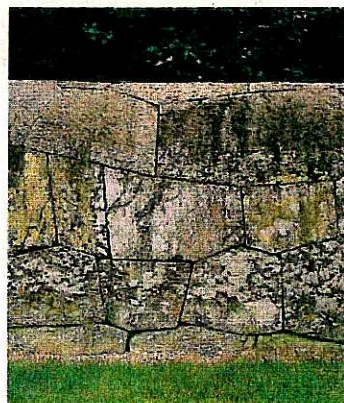


旧閑谷学校聖廟

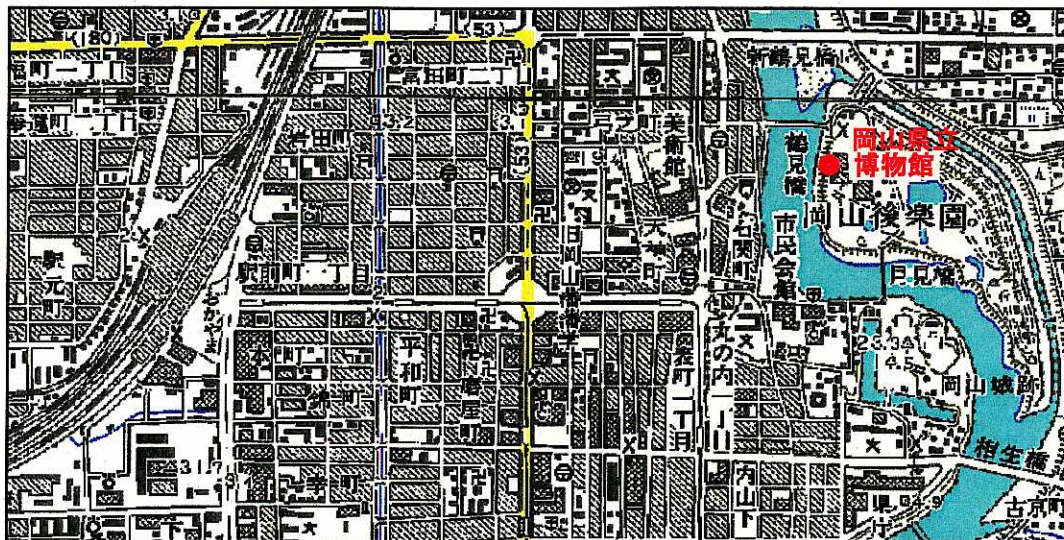
名 称： 重要文化財 旧閑谷学校石塀
所在地： 備前市閑谷740、741、742、748、750



石塀



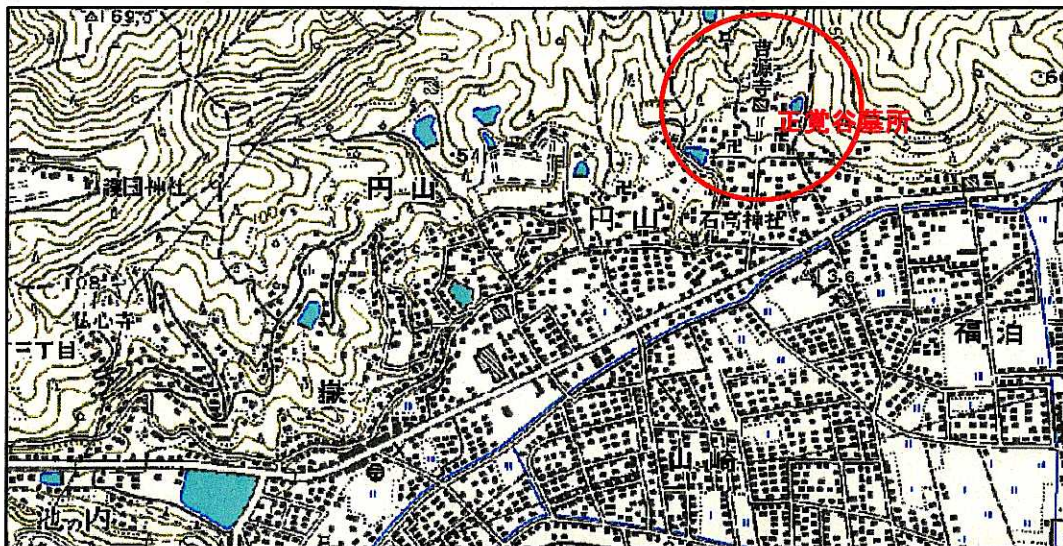
名 称： 重要文化財 閑谷学校関係資料
所在地： 岡山市後樂園1-5 岡山県立博物館



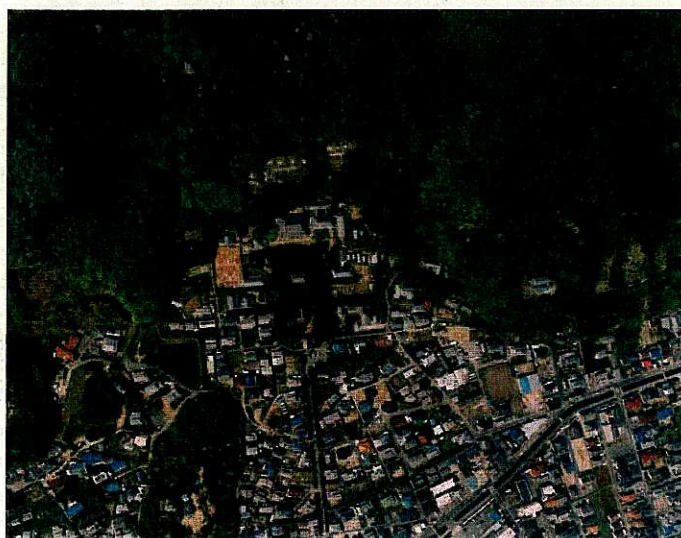
十三經注疏のうち礼記註疏

名 称： 史跡 岡山藩主池田家墓所 附津田永忠墓

所在地： 岡山市円山986-2、987-2、988-2、989-2、990-2、992-2、1000-2、1001-2、1002-1、1003-1、1013-1、1014-1、1048-2、1049-2、1050-2、1051-2、1052-2、1054-2、1056-2、1057-2、1058-2、1067、1068、1069、1071、1072、1073、1074、1075、1076、1077、1078、1079-、1080-、1081、1082、1083、1084、1085、1086、1087、1088、1089-1、1089-2、1090-1



曹源寺境内



航空写真



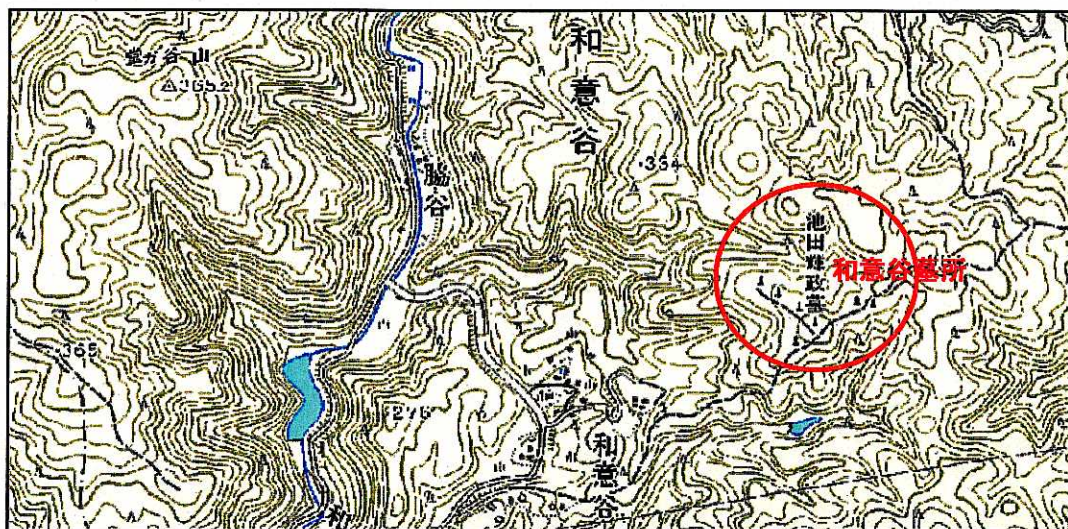
正覚谷墓所の階段



正覚谷墓所

名称： 史跡 岡山藩主池田家墓所 附津田永忠墓

所在地： 備前市吉永町和意谷16、40-1、42、44、45、46、46-1、46-2、47-1、47-2、48-1、49、50、51、52、53、53-1、55、58、59、59-1、59-2、59-3、59-4、59-5、59-6、59-7、59-8、59-9、59-11、60-1、60-2、60-3、70、71、1055



池田輝政墓碑

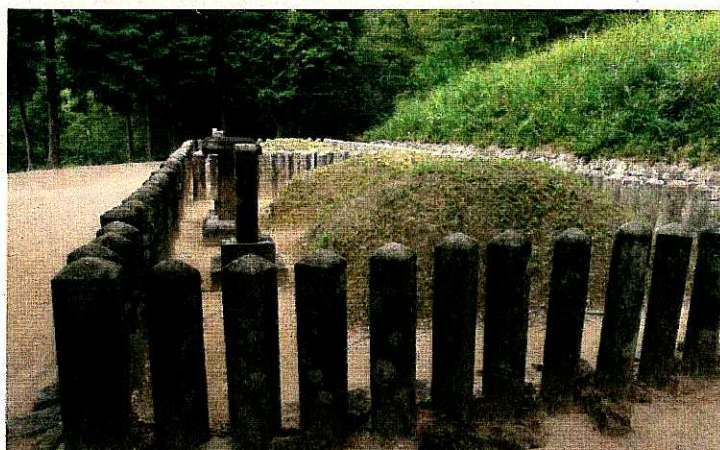
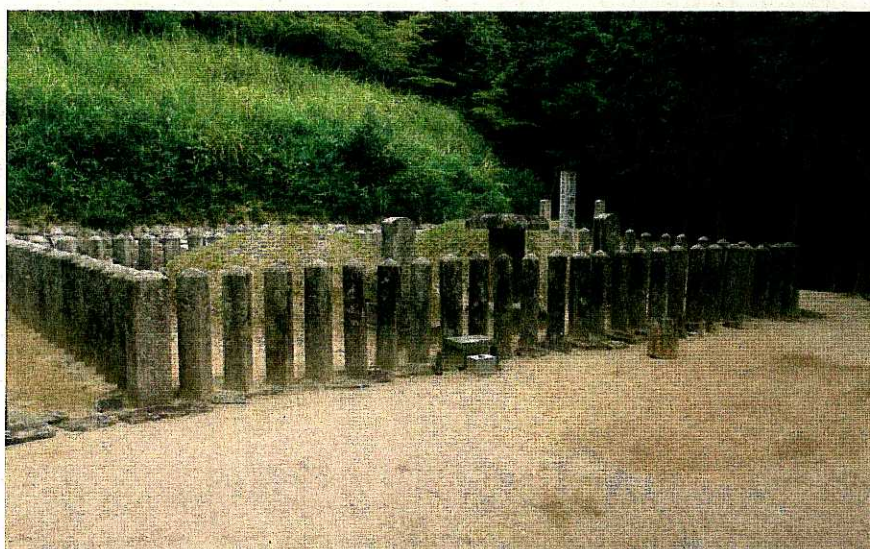
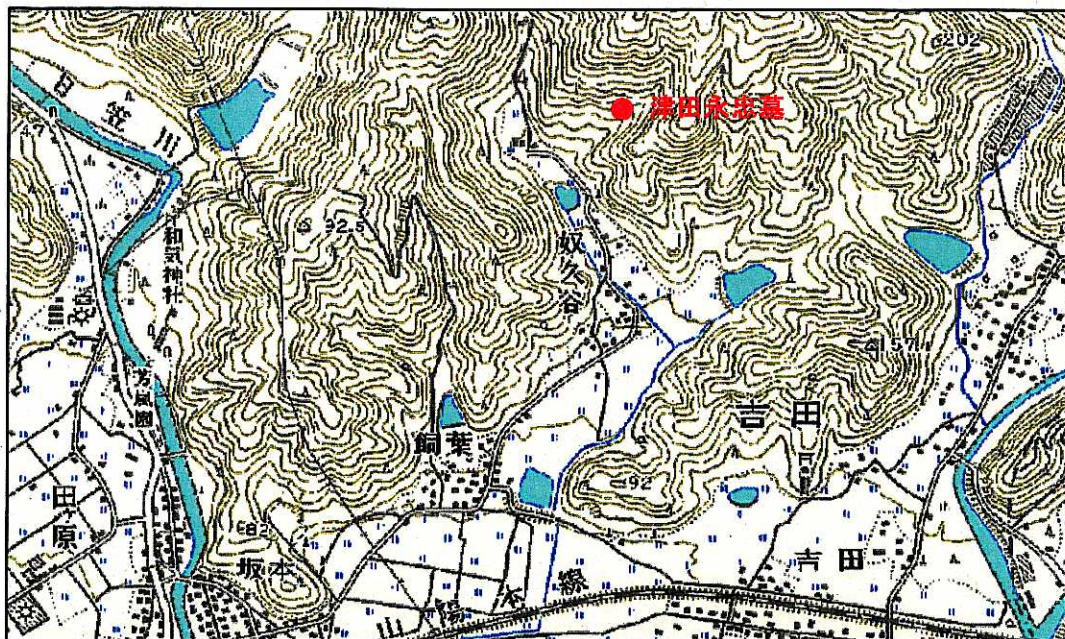


和意谷墓所



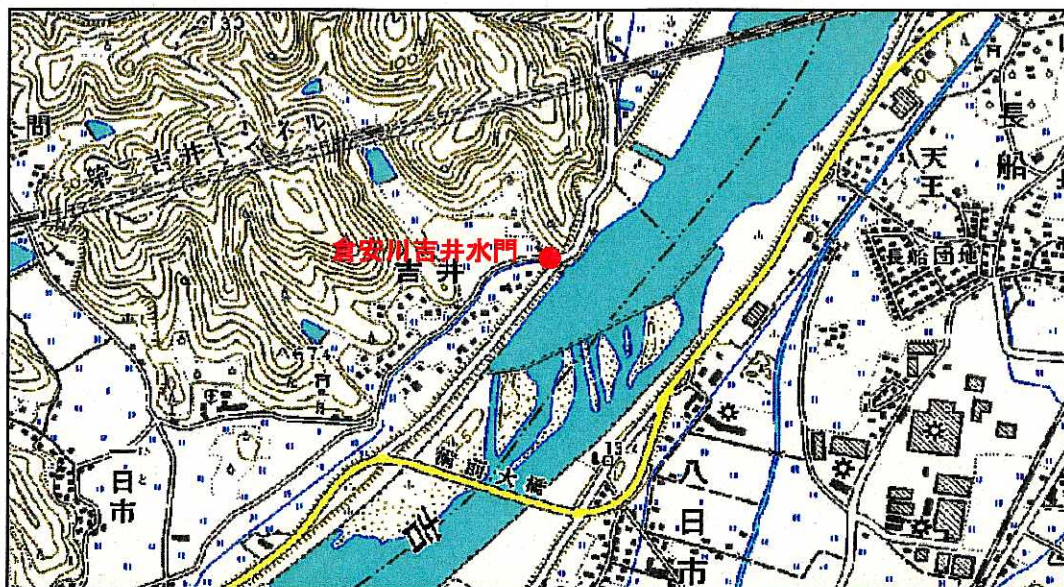
航空写真

名 称： 史跡 岡山藩主池田家墓所 附津田永忠墓
所在地： 和気郡和気町吉田2580



津田永忠墓

名 称： 岡山県指定史跡 倉安川吉井水門
所在地： 岡山市吉井45、46、46番地先



西の倉安川側から

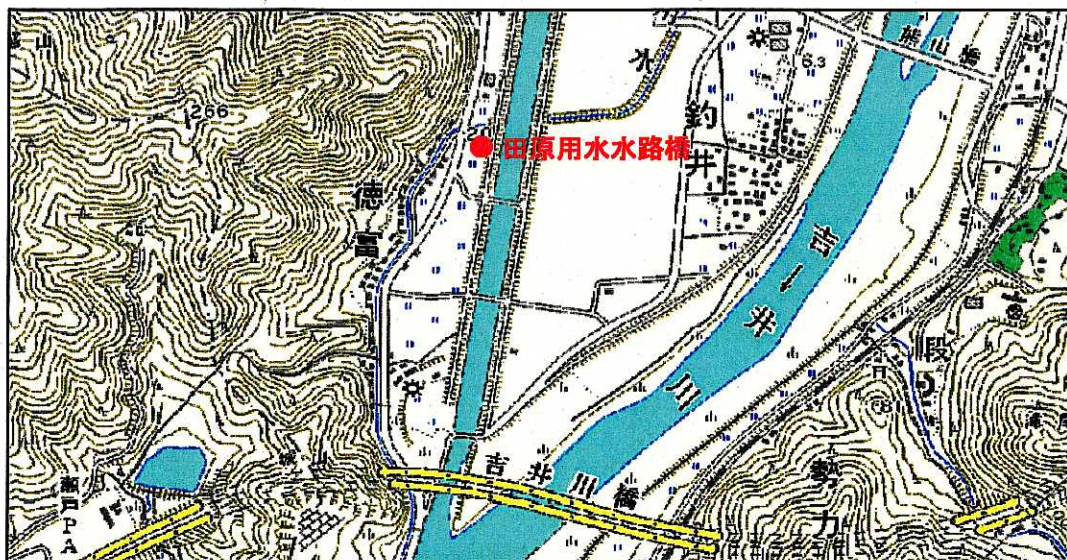


舟溜まり（東から）

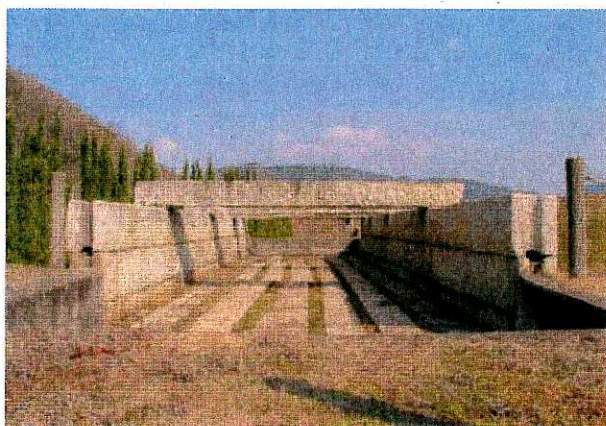


水門下石垣

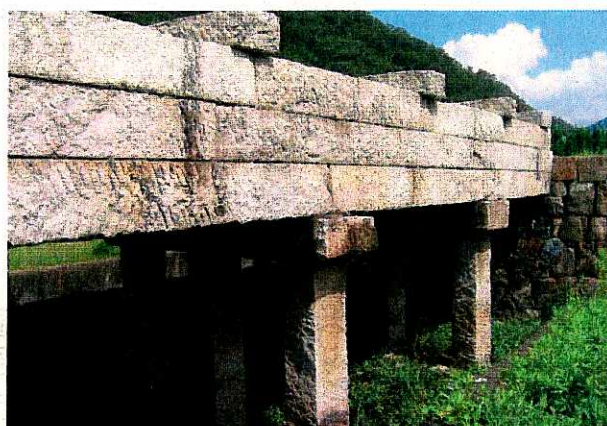
名 称： 岡山県指定重要文化財 田原用水水路橋（石の懸樋）
所在地： 赤磐市徳富246番地1地先



全景

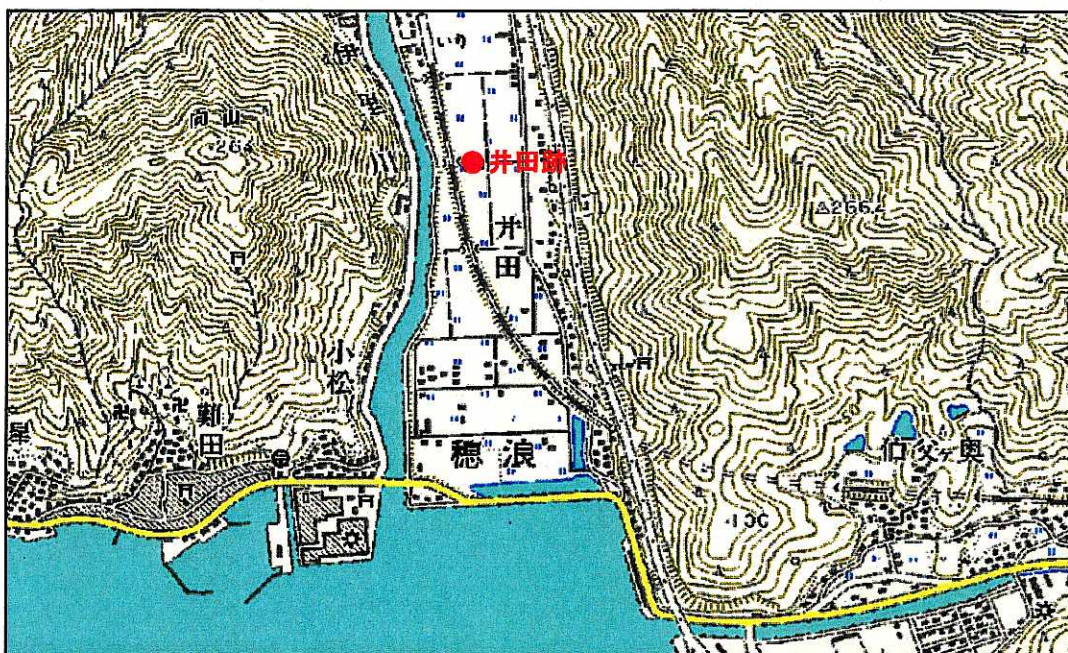


南から

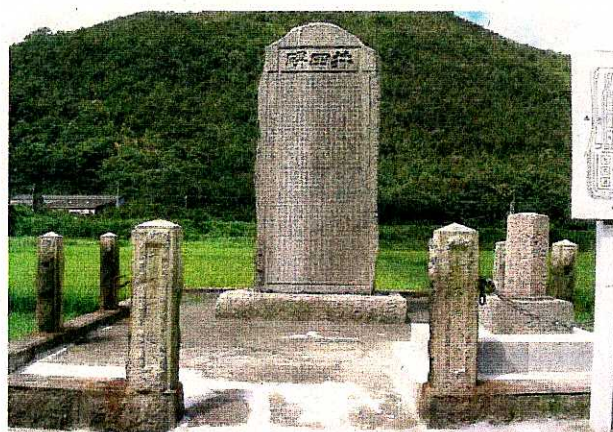


橋脚部

名 称： 備前市指定史跡 井田跡・
所在地： 備前市穂浪198

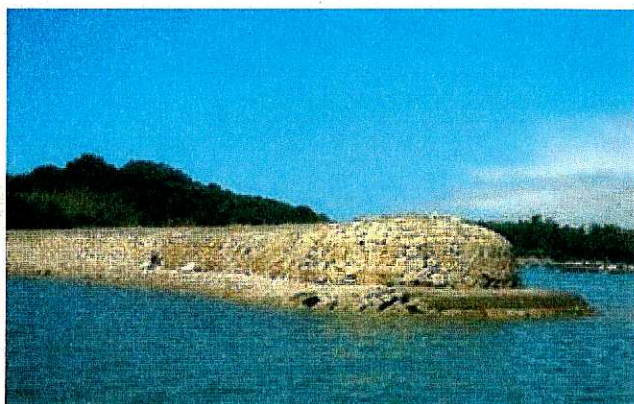
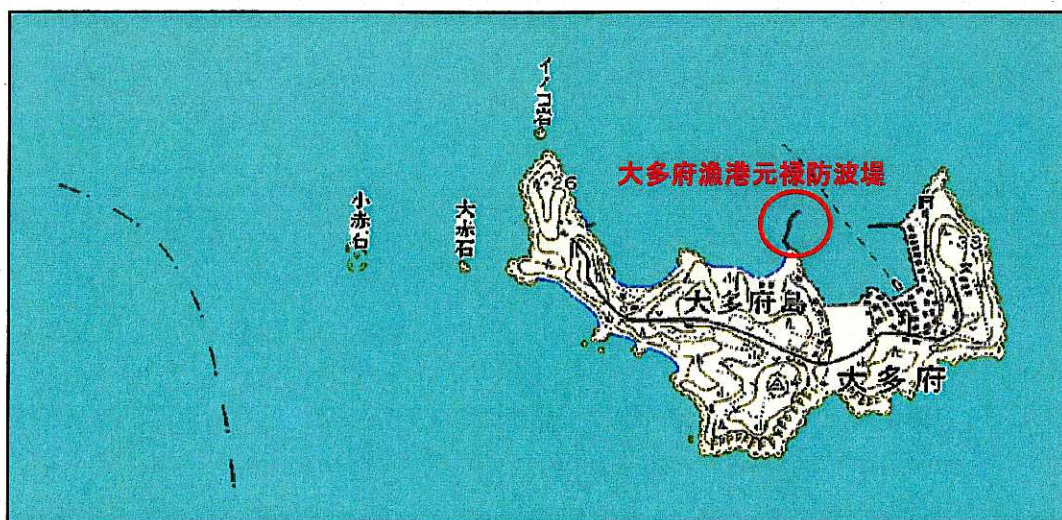


井田跡

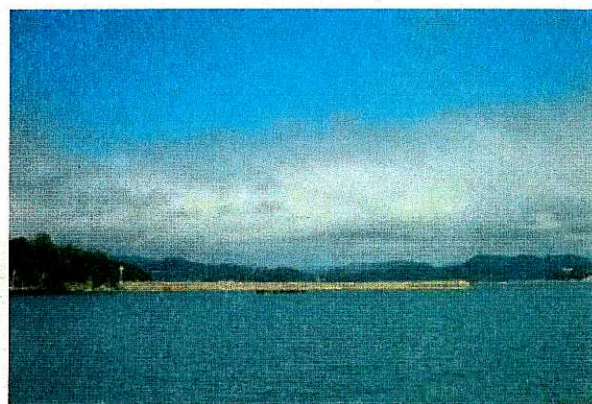


井田碑

名 称：登録有形文化財 大多府漁港元禄防波堤
所在地：備前市日生町大多府248-2地先



元禄防波堤先端部（沖側から）



全景（沖側から）

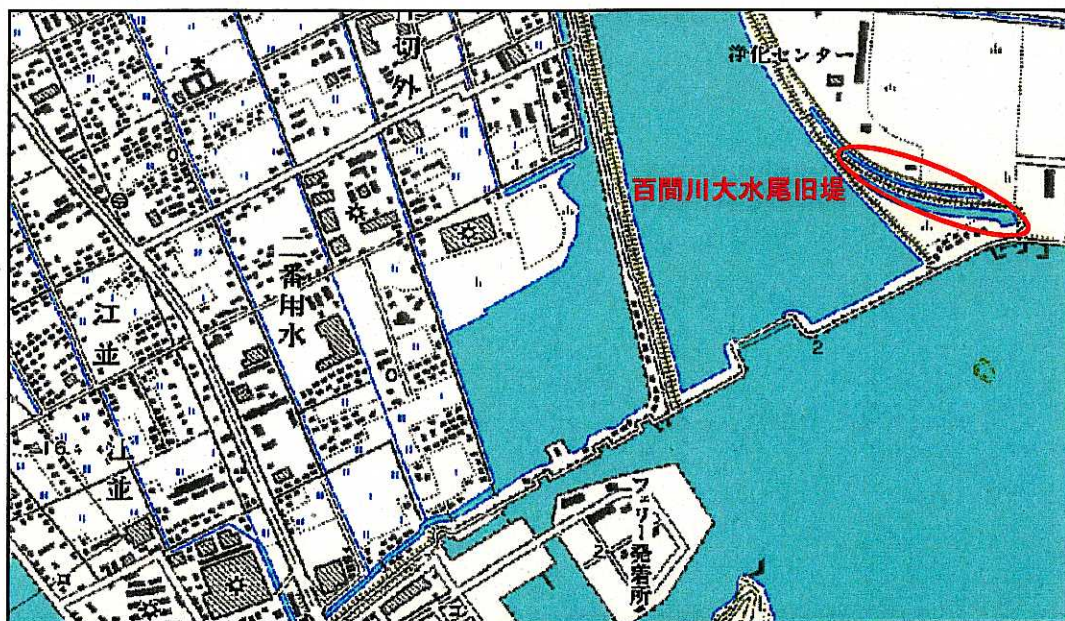


元禄防波堤の石積み



全景（陸側から）

名 称： 百間川大水尾旧堤
 所在地： 岡山市升田



南から



航空写真



西から



東から

(3) 保存管理計画

①個別構成要素に係る保存管理計画の概要、又は策定に向けての検討状況

構成要素	保存管理計画の概要／策定に向けての検討状況
岡山後楽園	大正11年3月8日に史蹟名勝天然紀念物保存法により名勝、昭和27年11月22日に文化財保護法により特別名勝に、また、昭和62年5月30日に岡山城跡として史跡に指定され、文化財庭園として適切な保存管理に努めている。現在、文化庁指導のもとに保存管理計画を策定中である。
旧岡山藩藩学	主体部は学校校庭の一角を占め、泮池周辺を中心に史跡としての景観保全、公開・管理が行われているが、縁辺部は戦後まもなくの区画整理の影響もあって、景観や土地利用状況が大きく変わっている。そうした現状を踏まえた上で、今後、保存管理計画の策定を行う。
旧閑谷学校	特別史跡としては、岡山県が管理団体となり、指定範囲内にある建造物の修理等を含めて、文化財の保存管理に当たっている。現在、その中心地は一般に公開しており、年間10万人以上の見学者が来訪する。今後、保存管理計画の策定を行う予定である。
旧閑谷学校講堂、小斎、習芸斎及び飲室、文庫、公門	岡山県所有のもと、建造物としての保存修理事業を含め、適切な保存管理を実施しており、内部の公開等を行っている。今後、特別史跡と合わせ、保存管理計画の策定を行う予定である。
閑谷神社	岡山県が管理団体として、建造物としての保存修理事業を含め、適切な保存管理を実施している。今後、特別史跡と合わせ、保存管理計画の策定を行う予定である。
旧閑谷学校聖廟	岡山県が所有者として、建造物としての保存修理事業を含め、適切な保存管理を実施しており、内部の公開を行っている。今後、特別史跡と合わせ、保存管理計画の策定を行う予定である。
旧閑谷学校石塀	岡山県が所有者として、建造物としての保存修理事業を含め、適切な保存管理を実施している。今後、特別史跡と合わせ、保存管理計画の策定を行う予定である。
閑谷学校関係資料	もともと収蔵されていた旧閑谷学校の文庫では、保管条件が必ずしもよくないため、県立博物館特別収蔵庫内に移し、その管理に万全を期すとともに、展示資料として公開、活用している。
岡山藩主池田家墓所 附津田永忠墓	史跡指定地が飛び地で2市1町におよび、遺構内容、所有や管理の現状、周辺環境にも偏差がある。そうした状況を踏まえ、一体的な調整を図ったうえで、今後、包括的な保存管理計画の策定を推進していきたい。附津田永忠墓については、現段階では地元奴久谷保勝会と町が協力し合い、整備保存維持管理をしている。
倉安川吉井水門	国史跡への指定も念頭に置きながら、今後保存管理計画の策定を行う。
田原用水水路橋 (石の懸樋)	公園内に保存し管理しているが、今後、より一層の保存管理をはかる。また、今後保存管理計画の策定を行う。
井田跡	備前市文化財保護条例に基づき、所有者・管理者によって保存管理がなされているが、今後保存管理計画の策定を行っていく予定である。

大多府漁港元禄防波堤	今後保存管理計画の策定を行う予定である。
百間川大水尾旧堤	現在、年2回の草刈り等を行いながら、保存管理している。今後も現状を維持していく予定であるとともに、国史跡の指定を念頭に置きながら、今後、保存管理計画の策定を行っていく必要がある。

②資産全体の包括的な保存管理計画の概要、又は策定に向けての検討状況

資産全体の名称	「近世岡山の文化・土木遺産群 ー岡山藩郡代津田永忠の事績ー」
実施機関	内 容 等
岡山県	個別構成資産は、その大部分が国又は県指定文化財として指定されているように、それぞれ個別には極めて高い歴史的又は学術的な価値を有するものであるが、本資産のように群として捉えた場合、先述した歴史的・文化的な位置づけの中で、築造者や共通項のもとに相互の関連性が存在するものと捉えなければならない。 したがって、広範囲に広がっている本資産群を確実に保存し、次世代へと継承していくためには、資産全体を包括する保存管理計画を新たに定めることが必要となる。そして、地域の住民はもとより、管理団体や所有者・管理者及び地方公共団体を中心とし、適切な保存と活用の施策を進めていく必要がある。 また、今後、合意形成のもとに本資産に新たに重要文化財や記念物等が追加されていく場合は、これらも包括的な保存管理計画のなかに含め、同様に保存・継承を行っていくものとする。 包括的な保存管理計画については、今後、文化庁の指導を仰ぎながら、策定を行っていくものとする。

③資産と一体をなす周辺環境の範囲、それに係る保全措置の概要又は措置に関する検討状況

構成要素	周辺環境の範囲／保全措置の概要、検討状況
岡山後楽園	都市計画法の規定に基づく岡山県風致地区条例による後楽園風致地区の指定、岡山県景観条例による後楽園背景保全地区（唯心山から2 km以内、延養亭から操山方向2.5 km以内及び芥子山方向8 km以内）の指定を行い、後楽園からの景観の保全に努めている。
旧岡山藩藩学	史跡は岡山市の中心市街地の一画（商業地域）にあり、隣接地は街路・建物の建つ民有地および学校校庭である。今後、周辺環境の保全の方法を検討していく。
旧閑谷学校	中心部の周囲は、山林に囲まれている。また、石門の脇には県道が通るとともに宅地がある。今後は、構成資産と一体をなす周辺環境に係る保全措置の方法を積極的に検討していきたい。
旧閑谷学校講堂、小斎、習芸斎及び飲室、文庫、公門	周囲は、山林に囲まれている。今後は、構成資産と一体をなす周辺環境に係る保全措置の方法を積極的に検討していきたい。
閑谷神社	周囲は、山林に囲まれている。今後は、構成資産と一体をなす周辺環境に係る保全措置の方法を積極的に検討していきたい。
旧閑谷学校聖廟	周囲は、山林に囲まれている。今後は、構成資産と一体をなす周辺環境に係る保全措置の方法を積極的に検討していきたい。
旧閑谷学校石塀	周囲は、山林に囲まれている。今後は、構成資産と一体をなす周辺環境に係る保全措置の方法を積極的に検討していきたい。
閑谷学校関係資料	—
岡山藩主池田家墓所 附津田永忠墓	岡山市分の指定地南前面は住宅地（第1種低層住宅専用地域）であるが、東西と北背後は丘陵で緑の山林（市街化調整区域）となっている。備前市分の和意谷の池田家墓所は、山林であり、吉井川中流県立自然公園、和意谷郷土自然保護地域に指定されている。和気町分指定地の周囲は山林である。今後、構成資産と一体となる周辺環境の保全の方法を積極的に検討していく。
倉安川吉井水門	史跡は田園地帯（市街化調整区域）にあり、隣接地は県道が通る吉井川堤防、用水路、住宅地、水田などとなっている。今後、構成資産と一体となる周辺環境の保全の方法を積極的に検討していく。
田原用水水路橋（石の懸樋）	移築されたものであるが、周辺環境の保全措置の方法を検討していきたい。
井田跡	保存管理計画等を踏まえ、県や有識者等による意見を参考にしながら、関係者と十分な協議を行いつつ、保全措置の検討を計画的に進めていく。
大多府漁港元禄防波堤	周囲は漁港であり、今後は構成資産と一体をなす周辺環境に係る保全措置の方法を積極的に検討していきたい。
百間川大水尾旧堤	周囲は、西側に現百間川が流れ、田園、宅地に囲まれている。保存管理計画等を踏まえ、県、市、有識者等による意見を参考にしながら、保全措置の検討を計画的に進めていく。

(4) 世界遺産の登録基準への該当性

① 資産の適用種別及び世界文化遺産の登録基準

<適用種別>

「建造物群」および「記念工作物」

<登録基準>

- i) 岡山藩郡代津田永忠が関与した構築物の多くは国の文化財（建造物・記念物）として指定されている。特にわが国は勿論世界でも現存する最古の庶民教育施設である旧閑谷学校の講堂をはじめとする建築群や、岡山後楽園造営・児島湾北岸の大規模な干拓事業に関連する文化・土木遺産群には、随所に卓抜した技術が駆使され、またそれらは同時に芸術的・造形的にも高く評価され、人間の創造的才能の極致ともいえる遺産群である。
- ii) 児島湾北岸の干拓事業において、用水路と運河の機能を担って開削された倉安川の築造技術は、萩城下町（山口県）の藍場川開削の参考とされ、また閘門式を採用した吉井水門は、後に遠賀川水系（福岡県）の寿命・中間水門の見本となったといわれ、ともに当地の先進的技術が各地に伝播されたことが判明する。干拓地内に流入する百間川の治水対策として考案された大水尾と樋門による排水システムは、後に各地の干拓地でも採用され、また17世紀に築造された大多府漁港元禄防波堤においては、その自然に逆らわない形態が、わが国の防波堤構造の定石となった。このように、岡山藩政の初期における各種の土木工事で開発・蓄積された諸技術は、各地に伝播継承され、後世の技術革新に与えた影響は甚大である。
- iii) 岡山大学大学院馬場俊介教授（土木史）の研究によると、石造構築物の構成資産の内、倉安川吉井水門はわが国現存最古の運河閘門、田原用水水路橋は国内最大の石桁水路橋、大多府漁港元禄防波堤は国内現役最古（突堤、埠頭を除く）と評価される。これらの優れた実用土木構築物が、元禄年間を中心とする特定の時期、しかも限られた地域内に形成されたことは、技術史的に見て極めて稀なことであり、かつ、重要な事象である。
- iv) 旧閑谷学校は、寛文10年（1670）に創設されたわが国最古の郷学であり、備前焼の瓦で葺かれた講堂や儒教の祖孔子を祀る聖廟、周囲を取り囲む独特の石堀等、創学当初の荘重な遺構がほぼ完全な姿で残されるとともに、学校で使用された典籍類も含めて一体的に保存されており、わが国の教育史上、特筆されるものである。また、岡山後楽園は元禄13年（1700）に一応の完成を見た回遊式の大庭園であり、岡山城の遺構とともに歴史的・文化的景観を形成している。土木遺産群については、17世紀後半の限定された期間内に建造された石造構築物が核となって残存し、なおかつ、そこには各種の石加工技術（備前積み、巻石、井桁構造）が複合的に使用されていることから、景観的・技術的にも類い稀な例として高く評価できる。
- v) 岡山藩郡代津田永忠が統括した技術集団のもとで開発・蓄積された土木技術は、藩主導の各種の土木建築事業で発揮されたが、その主たる事業が領民の生活・文化の向上を目指した干拓による新田開発等に係る実用的なものであり、それらの構築物は生活に密着した施設群として現在まで保存・継承され、地域の歴史的・文化的景観を形成している。

② 真実性・完全性の証明

本資産を構成する建造物群及び記念工作物のほとんどは、既に国・県等の文化財指定を受けており、歴史的・造形的及び学術的価値は証明されるとともに、文化財保護法等により適切な維持管理がなされ、良好な状態で保存されている。ただ、土木構築物の一部に関しては、現役の港湾施設として使用されることなどにより、後年に修復・補強を受けたものも含まれるが、形状・意匠・材質等は踏襲され、極力旧状の保全が図られている。

また、各資産の造営・築造に関しては、岡山藩政史料である「池田家文庫」（岡山大学附属図書館蔵）に当時の絵図・文書類が残存し、その真実性は証明される。

③ 類似遺産との比較

既登録の類似資産では、農業土木遺産としてオランダのベームステル干拓地やフィリピンのコルディリエーラの棚田群、また儒教・教育施設として中国の曲阜孔子廟、スペインのアルカラ・デ・エナレスの大学と歴史地区、ドイツのヴァイマールとデッサウのパウハウスとその関連遺産群、アメリカのシャーロットヴィルのモンティセロとヴァージニア大学等があるが、学校建築・庭園・土木構築物等の多岐にわたる分野で構成される本資産に類似する遺産は、国内はもとより東アジア地域にも存在しない。

また本資産群は、岡山藩郡代津田永忠という傑出した人物が指揮・監督した技術集団によって完遂された一連の事業であるという点に最大の特徴があり、他に類例のない文化・土木遺産と評価できる。